

ぶっちゃけ放談会



3人の「パンじい」と3人の「洋裁マダム」

高齢社会のためにファッショントリトリー

## ワクワクする? 高齢社会



### 連載企画

スタッフAの神戸定点観測 午後7時のフラワーロード

今回は何ドル? 1\$夜景

5問でわかる 世界のデザイン都市ガイド [フランス・サンテティエンヌ]

# ワクワクする 高齢社会って?

2015年10月に神戸で、2017年2月に東京で。KIITOは高齢社会をテーマにした展覧会「LIFE IS CREATIVE展」を開催しました。展覧会に向けた取り組みの中で、私たちのほうが元気をもらってしまうようなシニアのみなさんにお会いました。そんな交流を通じて見えてきた希望と課題は、ワクワクする高齢社会に向けたさらなるステップの原動力となりそうです。



# ＼3日だけ放談会／

## 3人のパンじいと 3人の洋裁マダム

「難しいことはようしゃべらん」と言いながら集まってくれたのは、以前、KIITOで開催した「男・本気のパン教室」「大人の洋裁教室」に参加いただいたシニアの面々。それぞれ男性対象、女性対象の教室だったため、顔を合わせる機会がなかったのですが、この度、合コン形式で初のご対面!

事前に準備した質問カードを引いてその質問に答えていくというやり方で、KIITOでの体験をはじめ、思っていることを率直にお話いただきました。A-F: KIITOスタッフ

### 1日だけ 男／女になれるとしたら？

木下：(野村さんに)あんた、女になるか(笑)？

野村：私は鹿児島の人間やから、そんなこと考えたこともない。ごめん、ほんまに。

瀧川：今、考えてみてください。

山田：男が女になったら全然感覚が違うでしょうね。意識とともに。

木下：芸能人でもいろんな人がおるでしょ。そういう願望がある人もおるし、おかしいことでも何でもないよ。

野村：おかしいおかしくないというよりも、なろうと思ったことがないねん。なれるなら誰やろ…吉永小百合 やさぎ(苦笑)。

平川：私はありますよ、若い頃にもっと勉強してたら、東大入ってアメフトみたいなあって思ってました。

山田：東大にアメフト部がないですよ。

平川：だから、つくるのよ！ 私は、感覚が逆になるみたいなこと、好きやな。

木下：ほな、藤田まことが出てたラグビーの映画知ってる？

平川：えー知りません。

野村清二〔ノンすけ〕

出身は沖永良部島。30年以上上続けた垂水のお豆腐屋を5年前に休業。洗い物が得意で、パン教室でも率先して洗い物を担当。パン教室に参加してから度々、家で奥様や娘さんとパンづくりをしている。



木下：あれは面白かったけどな。藤田まことって…あっ、藤田まこと ちゃうわ。間違った。藤田進や。すいません。

A：女性陣はどうですか？

瀧川：私は、自分が男になるよりも、旦那と男女を入れ替わってね、家のことを1日でもやって、どんな大変かっていうのを体験してほしい。だって、いつも偉そうにじいと待ってるだけで、ご飯出てくるなんてね。

井上：あーそれはいい考え。

山田：今、それをいつも言われてます…。

野村：それ言うたら、うちの家内は介護に行つとうから、朝昼晩の皿洗いから何から全部、私です。まあ、私は洗い物は好きなんやけどね。豆腐も洗ってたし。

井上：洗い物は苦にならない？

野村：うん。家内には「あとは料理できるようになってよ」と言われます。

### お互いへの質問

平川：では、みなさん、どうしてパンをつくろうと思ったんでしょう？

木下：そら、もうベリーイージーな話です。歳いってから、テレビで野球見たり相撲見たり、そんな風に過ごすのは嫌なんです。貧乏性なのかもしれないけど、新しいことを何かやりたいという気持ちがあって。仕事ではなく商売をやってきたけど、モノをつくるという経験がなくてね、パンも嫌いじゃないし、やってみようかなと。

野村：私は豆腐を30年くってきたから。最初は特に興味なかったけど、家内と娘が「ぼちぼちパンでもつくったら」ちゅうてね。それで申し込んでつくりはじめたら、結構面白くて。家でつくるのは、機械も何もないから温度管理が難しいけどね。

平川：私も昔、パンを自分でつくれました。捏ねるときに「パンッ！」って叩くでしょ。それでテーブルひとつが駄目になった…。

井上：大変っ！

野村：パンづくりは楽しいです。月にいっぺんくらいは、新しいパンに挑戦したい気持ちがありますね。

山田：私が参加したのは、好奇心からです。健康の維持には、何事にも興味を持つことが大事だと思ってますから。だから私は、毎日、朝の9時から夕方5時まで外出してるんです。そうでないと、家庭の平和は保てません(笑)。

A：ありがとうございます。逆にパンじいからご質問があれば。

木下：発音が悪いなあ。「パンジー」やで。

山田：洋裁のリメイク教室は、あるものをうまく活用するというやり方ですか？ 男物もやってほしいんですよ。

瀧川：やってますよ、男物も。

山田：こないだ、背広は全部捨てちゃったよ…。全然袖を通して

瀧川美美子〔たっキー〕

垂水に暮らして40年。40代で独立してお弁当屋を開業、昨年まで働き続けてきた。新しいものを買のではなく、あるものを生かしてものづくりをするのが好き。好きなアイドルは布施明(音)、今は松本潤。



# 「ライフ・イズ・クリエイティブ」展に代わるタイトル案

ないし、体型も変わってきてるからね。

瀧川：よく言われるんですよ。「もうちょっと早よ言うてよ」とって(笑)。

井上：ほんとにね、男の人のスーツはリタイアなさったらたくさん残ってるんですね。

瀧川：でも、**スーツのリメイクって大変やうね。**着物はほどいたら“反”やけど…。

井上：そう、洋服って切り刻んで立体に仕立てられてるからほんとに難しい。今回、洋裁教室でやってみて初めて思いました。着物やったらできるんですけどね。

木下：紋付なんかでも上手にリメイクしたら、僕は非常にいいものができると思うのよ。せやのに、店でやってもらったら、とてつもなく高い。なんで、あんなもんに何万円もするねん。

平川：ほんとに。高いですね。

## スタッフの ファッションチェック

野村：あんた、なんで隠れるのよ(笑)。

F：いやちょっと…では、私の服装からお願ひします。

木下：僕も歳いとこからね、すばり言いますよ。ええねんけどね、その服は、あなたの顔にうつらんわ。**もったいない。**

F：うつらん…?

瀧川：似合わないということね。

木下：その色柄のコンビネーションがようわからん。

井上：下のジーンズに合わせてるんじゃないの。私はいいと思うわ。

木下：ま、80すぎたおじいさんの言うこっちゃから、あんま気にせんでもええ。

平川：素材の目がちょっと粗いから、もうちょっと細かいのでもいいのかな。

瀧川：私は、昔はずっとファッション雑誌を買ってたけど、仕事を始めてから、エプロンにマスクで、化粧も何もなし。だから、もうファッションの感覚が全然ないんです。若いひとは若いひとの感性があるんやから、私らがとやかく言うよりも、**自分の好みで着た方がいい**と思いますよ。

F：はい、わかりました。

A：山田さんはどう思います？

山田：私はわからん、センスないし。

井上：この頃、私が心がけているのは、特別に外出するってこともそんなにないから、**よそいきの服はもういらない**と。それよりも、その日の自分の気持ちに忠実にコーディネイトしたいなど。たとえば、展覧会を見に行く日だったら、その絵描きさんがどんな感性をしてるかを想像してコーディネイトしてみたりね。

瀧川：**ハイレペル** やね。

野村：男のひとはそこまではわからん。ごめんね。

瀧川：そうやと思うわ。**うちの主人も一緒。**

木下：「ライフ・イズ・クリエイティブ」では年寄りにはわからへんな。

山田：若い人が見たらわかるの、このタイトルは?私だってわかりませんよ。

井上：「生活を豊かにする」展でいいんじゃない?

瀧川：ハッキリ言わせてもらうと、これだけ立派な施設(KIITO)があって、ごくわずかな人しか利用してないでしょ。もっともっと広めていかなきゃ。

木下：ここがでけて5年か?5年ですぐに広まるかって言うたら、ちょっとしんどいんちゃうかな。

瀧川：じゃあ、このまま10年でどれだけ広まりますか、これが。

**すごくもったいないと思う。**

平川：難しいですよね。私が住んでる団地でもいろんな行事をやってるけど、出る人は決まってしまう。来ない人は絶対に来てくれないから。

瀧川：そうですね。そこを何とか来させないと。

平川：物の考え方方がみんな違うから、それが難しい。

山田：**クリエイティブ** にしなくちゃいけない  
そこがわからない。我々としては、別に新しいことをやらなくたってさ、今までもいいわけですよ。ただ、自分に籠もるんじゃなくて、外に出られたらいいわけだから、それをクリエイティブだなんて言うと、しんどくて余計に動かないよ。実際問題として、簡単にクリエイティブなんてできないんだから。

木下：自指す目標はクリエイティブということじゃないの?

山田：最終的にはそうでしょうけど、そんな大げさな言葉を使わなくともいいんじゃないかな。

井上：日本語で書かれた「高齢社会における人生の作り方」、この方がわかりやすいわ。作り方じゃなくて「楽しみ方」とか。

瀧川：**今から楽しもう** とか?要するに、医療費の削減なんですよ。ボケとか引きこもり老人の予防をして。

野村：神戸市もだいぶ力を入れてるでしょ。僕も「高齢者センター」の講習を受けたことがあります。

山田：僕は、高齢者が高齢者の介護をするなんて反対ですね。あんなのエネルギーを全部取られちゃう。うちの母親のことでもすごく大変でしたよ。それを他人の分までやるなんて。

木下：結局、自分が介護されないような立場に持つて行くことがいちばんやからね。

野村：自分の健康のために参加しますの方が、まだ気が楽。**誰がのためにやります**だったら、**しんどい。**

山田：しんどいね。

瀧川：だけど、私が行ってる神戸市のシルバーカレッジでは、「再び学んで世のために」って、これを3年間ずっと言われるんです。だから、ちょっと感化されちやって、ここの洋裁教室で学んだことも世のために活かさなきゃって思いはじめて、

木下宏【きやん】

パンジー最年長。生まれも育ちも神戸といふ80余歳。20年以上続けた町内会長は昨年で引退。脱力するような發言で場を和ませてくれる。時折、英語やフランス語を繰り交ぜて会話。

山田準一【Bonちゃん】

就職で神戸へ移住して40数年だが、今でも幼少期を過ごした標準語がのこる。パン教室には奥様に内緒で参加。歯に衣着せぬ物言いだが、実は優しい。松山英樹、羽生結弦ら、若いスポーツ選手の優秀さに注目。



平川靖子【ヒラメ】

小学1年生で神戸へ。以来、70年近く神戸在住。ワークショップのムードメーカー。お菓子作りが趣味で、得意のマドレーヌをよくふるまってくれた。3人の娘を育てあげ、今は孫の「ゆうすけ」君に夢中。





# 午後7時のフラワーロード

## スタッフAの神戸定点観測

◎ 花時計前

○ 大城さん姉妹 (40代／沖縄県那覇市)

市役所の展望台を見に行く途中です。沖縄から2泊3日の観光で、今日は初日。花時計とかフラワーロードとか、名前がお洒落ですよね。飛行機の中でも旅行雑誌を見て、どんなのか気になっていました。



◎ 東遊園地

○ 中嶋純子さん (65歳／神戸市垂水区)

鎮魂祭の帰り道、夜の景色がきれいだったので、写真を撮っていました。このオブジェもきれいだと思って。鎮魂祭に来るは初めてです。震災から22年目で一度お参りしようって。ルミナリエは毎年行っているんですけどね。



◎ KIITO周辺

○ 左・ノアのママ、

○ 右・みるくとくろみのママ (神戸市中央区)

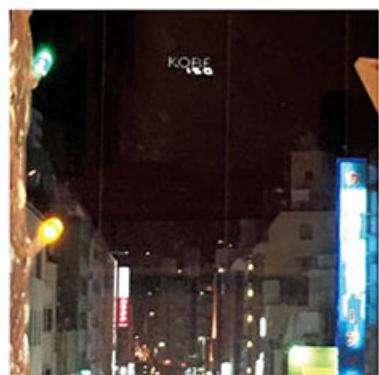
犬の散歩中です。仕事の都合上、いつもこの時間。同じマンションの住人同士で、公園で落ち合って、一緒に散歩しています。／みるくとくろみは私にくついているので、リードなしでも大丈夫。



スタッフFによる

## 1\$夜景 / 第3回

1000万ドルとは言わないけれど、ちょっとイイよね、という神戸の夜景を紹介します。



♥ 値段 : 15\$

神戸市街地の山側を彩る山嶺電飾が、神戸開港150周年を記念した特別仕様に。三宮駅ビルの5階に上ると、真正面から眺めることができます。 #KOBEを一望 #神戸開港150周年 #中華料理店の窓際の席 #要予約

5問でわかる

## 世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市ってよう分からへん、という肩コリを、世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけてほぐしてみよう。

第3回はフランス東部の都市・サンティエンヌから。

Q1 「ここぞデザイン都市！」といふスポット / Q2 サンティエンヌを舞台にした文学や映画、音楽のオススメ / Q3 最近、一番驚いたこと / Q4 ハマっていること / Q5 デザインをひと言いえば

### vol.3 フランス・サンティエンヌ | Saint-Étienne

1 シテ・ド・デザインです。サンティエンヌ市のデザイン、クリエイティブ地区の中心施設であり、原動力であります。このデザイン・キャンパスはリサーチ、イノベーション、教育、そしてプロモーションに捧げられています。なくてはならない、訪問すべき場所です！

2 サンティエンヌ市生まれの歌手・ベルナール・ラヴィリエの「サンティエンヌ」という曲です。

3 ドナルド・トランプ大統領の誕生

4 デザイン都市・デトロイトと共に「第10回サンティエンヌ国際デザインビエンナーレ2017」開催に向けて、展覧会や会議、各国からの代表者を迎える準備をしています。たくさんの仕事でエネルギーが必要だわ！

5 デザイン=共有

○ 答えてくれた人

Josyane Francさん

サンティエンヌ市シテ・ド・デザインの国際部長、兼高等美術デザイン学校(ESADSE)国際部長として、様々なネットワークの構築と推進に加え、ビエンナーレをはじめとする国際展覧会やセミナーの企画、プロジェクトコーディネーターを務める。



## KIITO NEWSLETTER VOL.016

2017年2月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、  
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) が  
年4回発行する情報誌です。  
センターのコンセプトである+クリエイティブな  
活動を発信していきます。

発行: デザイン・クリエイティブセンター神戸  
編集: 竹内厚 [Re:S]  
デザイン: 神崎奈津子  
イラスト: スケラッコ  
写真: 坂下丈太郎 (放談会)

# KIITO:

## ACCESS

阪神神戸三宮駅、阪急神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より  
フラワーロードを南へ徒歩20分  
国道2号線を超えた神戸税関東向かい  
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分  
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分  
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

## CONTACT

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)  
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4  
TEL: 078-325-2235  
E-mail: info@kiito.jp  
開館時間: 9:00-21:00  
休館日: 月曜日 (祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29-1/3  
<http://kiito.jp/>

